

報 告

予防接種を受ける幼児の家族への看護職のかかわりの実態 ～自由記述の分析を通して～

Nursing Care for parents with young Children who should have vaccines: analysis of the free description of questionnaires by content method.

藤沼小智子¹⁾, 佐鹿孝子²⁾, 杉山智江¹⁾

Sachiko Fujinuma,, Takako Sashika, Tomoe Sugiyama

キーワード：予防接種，幼児，親

Key words : vaccines, young children, parents

要 旨

本研究は予防接種を受ける幼児の家族に対して看護職がどのような思いがあり、かかわりをしているのかを明らかにすることである。研究方法はA県西部地方にある小児科を標榜する診療所・保健センター等で勤務する看護職480名を対象に自記式質問紙調査を実施した。調査内容は自由記述形式にて予防接種時の家族へのかかわりと、予防接種を受ける子どもと家族への看護職の思いとした。家族へのかかわりの記述は59施設であり【親への精神的サポート】【次回以降の予防接種に関する指導】が半数以上を占めた。看護職の思いの記述は51施設であり、看護職は親への精神的サポートが必要であると考えていたが、子どもの健康管理を担う親との信頼関係を大切にし、親の自己肯定感を高めることにより次回の予防接種時の協力を促していた。多忙な外来看護においても子どもが主体的に予防接種を受けられるようなケアガイドラインの開発と看護職の支援が望まれる。

I.はじめに

小児医療におけるプレパレーションはあくまでも日常的なケアの一つであり(田中, 2008), 子どもに情報提供を行うことで子どもが主体的に病気や治療に取り組むことができる。また, プレパレーションは子どものみを対象とするのではなく, 子どもの適応力を高めるために両親が参加した方がよいといわれている(岡崎ら,

2011)。親から子どもへの説明は約8割行われているものの認知面への働きかけが多く, 子どもの気持ちのゆれに対する働きかけは少なく, 説明をしないままに予防接種を受けさせることもあることがわかっている(藤沼ら, 2015)。この背景には親は子どもの理解力を過小評価し, 子どもの認知的・情緒的な葛藤を避けたいという思いがあると推測できる。このような親の心理を理解した上で, 子どもが前向きに予防接種に取り組めるように援助

受付日：2014年9月11日 受理日：2015年1月13日

1) 埼玉医科大学保健医療学部看護学科

2) 埼玉医科大学大学院看護学研究科

するとともに、子どもの理解力を親とともに認めることが必要である。また親は処置時に子どもの対処能力を高める有効なかかわりが行えないこと(流郷ら, 2003)や、親がかかわるためには親への役割遂行の支援が必要とされている(岡崎ら, 2010)。つまり、看護職は予防接種を受ける子どもだけではなく、親への援助が必要なのである。親と子どもがプレパレーションを経験することで親から子どもへの説明を促すことにつながることもから(藤沼ら, 2013)、看護職のかかわりが期待されている。

小児外来看護の現状として、外来看護師のプレパレーション認知率は7割あるが、実施率が3割にとどまっていること(本間ら, 2009)、外来看護師の小児看護に必要な知識・技術の不足がある(堀ら, 2002)。地域での小児科診療所や保健センターにおける看護職の予防接種時のかかわりは、子どもよりも家族へのかかわりが少ないことがわかっている(藤沼ら, 2014a)ものの、家族へのかかわりの内容までは明らかではない。今回、予防接種に関わる看護職が予防接種を受ける子どもの家族に対してどのような思いがあり、かかわりをしているのかを明らかにすることで看護の方向性を考察したい。

II. 研究目的

予防接種を受ける子どもの家族に対して看護職がどのような思いがあり、かかわりをしているのかを明らかにする。

III. 用語の定義

プレパレーション: 「医療を受けるとき、子どもが感じる様々な不安や恐怖感を、医療者がウソをつかないで『何が起るのか』を子どもがわかる方法で説明し、子どもの心理的混乱を予防したり緩和したりする。これによって、子どもが頑張れたという実感ができるように関わり、子どもの健全なこころの発育を支援すること」(蝦名, 2005)。

IV. 研究方法

1. 研究対象: A県西部地方にある小児科を標榜する診療所および保健センター等で勤務する看護職480名
2. 調査期間: 平成26年2月～4月
3. 調査方法: 自記式質問紙調査
4. 調査内容: 回答者の特徴と自由記述形式の設問にて、予防接種時の家族へのかかわり(以下、家族へのかかわり)と、予防接種を受ける子どもと家族への看護職の思い(以下、看護職の思い)を調査した。
5. 分析方法: 回答者の属性については単純集計した。自

由記述部分は意味を含む最小単位(句、節、文)にコード化し、類似したコードを集約してサブカテゴリーへ、サブカテゴリーを集約してカテゴリーとした。分析にあたっては、研究者間で繰り返し検討した。

6. 倫理的配慮: A県西部地方にある小児科を標榜する診療所および保健センターの施設長に対して、事前に研究の趣旨と方法を文書にて説明し、施設長の承諾を得た上で、1名の看護職へ研究説明文書・質問紙を配布してもらい、郵送法にて回収した。説明文書には研究の趣旨および辞退により不利益を被らないこと、発表に際しては個人が特定できないようにすること、質問紙は鍵のかかる場所に厳重に保管し、終了後に破棄することを明記した。質問紙の回答と返信により研究の同意を得たと判断した。また所属大学倫理審査委員会の承認(承認番号107)を得た。

V. 結果

480施設へ配布し、97施設より回答(回収率20.2%)があった。そのうち、幼児を対象とした予防接種を実施していない11施設と看護職不在の1施設、計12施設を除く85施設(有効回答率87.6%)を対象とした。

1. 回答者の属性

年齢は40代が41名(48.2%)、看護師資格は看護師が56名(65.9%)、看護師経験は20年以上が45名(52.9%)と多かった。プレパレーションについては「初めて聞いた」が42名(49.4%)、実施歴も「実施していない」が48名(56.5%)であった。詳細は表1に示す通りである。

2. 予防接種時の家族へのかかわり

家族へのかかわりに対して記述があったのは59施設(回答率69.4%)であり、94のコード、18のサブカテゴリー、8つのカテゴリーが抽出された(表2)。抽出されたカテゴリーは【親への精神的サポート】【次回以降の予防接種に関する指導】【接種前のかかわり】【接種時の子どものかかわりについて伝える】【接種後のかかわり】【子どもへの教育方法の指導】【親の頑張りや承認】【きょうだいへの援助】であった。

以下、カテゴリーを【】、サブカテゴリーを<>、「」はコードを示す。

最も多く記述されていたカテゴリーは【親への精神的サポート】であり、「医療者として信頼されるように」「初めて接種する親の不安への援助」「親の話を聞く」などの<不安や疑問への援助><親への共感を示す><医師への橋渡し>の3つのサブカテゴリーが含まれる。また【次回以降の予防接種に関する指導】という「

表1.回答者の特徴

N=85

| 項目 | 人数 | 割合% |
|-------------|----------|---------|
| 年齢 | 20代 | 2 2.4 |
| | 30代 | 11 12.9 |
| | 40代 | 41 48.2 |
| | 50代 | 23 27.1 |
| | 60代以上 | 7 7.1 |
| 看護師資格 | 准看護師 | 23 25.9 |
| | 看護師 | 56 65.9 |
| | 保健師 | 3 3.5 |
| | 助産師 | 2 2.4 |
| 看護師経験 | 1-4年 | 1 1.2 |
| | 5-9年 | 4 4.7 |
| | 10-14年 | 19 22.4 |
| | 15-19年 | 15 16.5 |
| | 20年以上 | 45 52.9 |
| 小児看護経験 | 1年未満 | 17 11.8 |
| | 1-4年 | 13 15.3 |
| | 5-9年 | 15 17.6 |
| | 10-14年 | 18 21.2 |
| | 15-19年 | 12 12.9 |
| 子どもの有無 | 20年以上 | 10 11.8 |
| | いる | 73 85.9 |
| プレパレーション知識 | いない | 11 12.9 |
| | 知っている | 16 18.8 |
| | 聞いたことがある | 21 24.7 |
| プレパレーション実施歴 | 初めて聞いた | 42 49.4 |
| | 実施していない | 48 56.5 |
| | 1年未満 | 1 1.2 |
| | 5-9年 | 4 4.7 |
| | 10年以上 | 9 10.6 |

無回答・少数意見は除く

ワクチン接種計画」「次回接種の確認」「ワクチン種類による次回接種可能なワクチン」「公費接種をふまえた計画」などの「ワクチンのスケジュール管理」や「予防接種の必要性・副作用の教育」「予防接種への理解を深める」などの「予防接種の必要性を伝える」が多く記述されていた。さらに【接種前のかかわり】である「子どもの体調の確認」<今回の予防接種説明>「接種するワクチンの確認」や【接種時の子どものかかわりについて伝える】である「子どもの固定方法を説明する」「子どもが安心するようなかかわり」「安全に接種できるよう説明」といった「予防接種中の役割を伝える」ことや「頑張った子どもへの声かけ」など「頑張った子どもへの働きかけを伝える」<接種時の同席を促す>ことをしていた。【接種後のかかわり】である「接種後の注意点」「接種後の入浴」「接種後の過ごし方」「子どもの様子の観察を依頼」「副反応の説明」といった「接種後の注意事項を伝える」ことや「異常時の対処方法を伝える」をしていた。その他、【子どもへの教育方法の指導】や「子どもと一緒に親を誉める」といった【親の頑張りを承認】や【きょうだいへの援助】があった。

3. 予防接種を受ける子どもと家族への看護職の思い

看護職の思いに対する記述があったのは51施設（回答率60.0%）であり、86のコード、27のサブカテゴリー、10のカテゴリーが抽出された（表3）。以下、カテゴリーを【】、サブカテゴリーを<>、「」はコードを示す。

予防接種を受ける子どもと家族への看護職の思いでは【家族の多様性】と【親の準備性の思い】が多く記述されていた。【家族の多様性】とは、「予防接種のことを子どもに話していない」「事実を伝えていない」「直前に伝える親がいる」といった「親が来所前に子どもに予防接種のことを話していない」や「親の認識不足の多さ」「さまざまな考えの親」「子どもに寄り添う気持ちがさまざま」「父親の育児参加の増加」といった「家族の多様性」であった。【親の準備性の思い】とは「子どもに説明してきて欲しい」「医療者と一緒でも子どもに説明して欲しい」「子どもに嘘はつかないでほしい」といった「親への要望」や「追加説明の必要性がない」「親の対応が良い」という「親の準備性の良さ」<親の対応への思い>「予防接種の必要性を理解して欲しい」であった。

また【親の気持ちを思う】では「子どもを思う親の気持ち」や「ワクチンの複雑さ」「予防接種への不安」という「親の予防接種への不安」があった。さらに、【医療者としての思い】という「親としての共感の気持ち」<内科スタッフの困惑>「予防接種は緊張」<子どもの理解力への懸念>といった思いの記述があった。加えて、【かかわりの難しさ】という「親への教育の難しさ」や

表 2. 予防接種を受ける子どもの家族へのかかわり

N=59 記述件数94

| カテゴリー | サブカテゴリー | コード | 記述内容 |
|----------------------|-----------------------|---|---|
| 親への精神的サポート (25) | 不安や疑問への援助 (19) | 不安や疑問への援助 (9) | 不安や疑問への援助 (4) 心配なこと、聞きたいことがないか事前に確認 (2) 親の不安軽減に努める (2) 予診票の書き方、回数、間隔などわからないところを説明 できるだけ声かけをして家族の方の不安、質問などしやすい状況。信頼関係を大切 |
| | | 医療者として信頼されるように (3) | 笑顔で不安がない様子を演ずる 聞かれたことなどを的確に答える |
| | | 初めて接種する親の不安への援助 (2) | 初めて我が子に同時接種される親は、安心して理解した上で接種できる様に、十分な説明をした上で接種 初めて注射を受けるお子さんをつれた両親には、不安なことや注射のすすめ方 |
| | | 親の話を聞く (2) | 混乱している親も多いので、接種前後に話を聞くようにしている 親の話をよく聞く |
| | | 納得して接種できるよう援助 (1) | 疑問に思っていることがあればしっかり答えて納得していただいた上で接種 |
| | 親への共感を示す (4) | 同時接種への不安 (1) | 同時接種に対する不安を持つ親もまだ多い |
| | | 他の接種時の様子を聞く (1) | 当日接種したもの以外の種類についても、その後の様子などを聞くようにしている |
| | | 親への共感を示す (4) | 「月齢が低いとママも予防接種スケジュールを考えるのが大変ですね」 私も子育て経験者なので、特に母親の気持ちを理解するようにしている 泣いたり嫌がりたりするお子様の家族は恐縮してしまっていることが多いので、こちらがぜんぜん気にしていないことを少しオーバーに伝える 共感する。共感する言葉かけをする |
| | | 医師への橋渡し (2) | 医師への橋渡し (2) |
| | | 医師への橋渡し (2) | 難しいときは口と相談しようと言話を促す 母親や本人の不安を遠慮せず医師に相談できるよう橋渡しの役割を大切にしている |
| 次回以降の予防接種に関する指導 (22) | ワクチンのスケジュール管理 (15) | ワクチン接種計画 (4) | 一人ひとりの状況に合わせてワクチン計画を立てる 予防接種のスケジュールなどを一緒に相談し決定している 母子手帳をチェックして、接種可能な注射があれば案内 今後のスケジュール |
| | | 次回接種の確認 (3) | 次回の予防接種の予定 (2) 個別の表を作成し、次回の接種プランを医師が説明し、看護師が確認 |
| | | ワクチン種類による次回接種可能ワクチン (3) | 生ワクチン・不活化ワクチンの次回の接種時期 (2) 次の注射までの間隔、次に受けられるワクチンの説明 |
| | | 公費接種をふまえた計画 (2) | 公費で受けられる期間が決まっているので、次はいつかなどの確認 公費を中心として予定の計画を表や文章 |
| | | スケジュールの相談 (2) | 予防接種スケジュールについて相談を受けている (2) |
| | 予防接種の必要性を伝える (7) | 診察時からのお知らせ (1) | また診察時それぞれこの注射も追加になりますよお知らせしたりもする |
| | | 予防接種の必要性・副作用の教育 (4) | 予防接種の副作用を理解してもらう (2) 任意接種を促す親にはパンフレット等を用いてワクチンの重要性を説明する。 ホームページ・講座・応対などで啓蒙・教育 |
| | | 予防接種への理解を深める (2) | 具体的に予防接種について話す 予防接種について理解を深める |
| | | 計画的な接種の意味を伝える (1) | 注射にきちんと受けていく意味 |
| | | 子どもの体調・機嫌 | 子どもの体調・機嫌 |
| 接種前のかかわり (9) | 子どもの体調の確認 (3) | 子どもの体調の確認 (3) | 子どもの様子を聞く 子どもの健康状態をよく聞きだし、心配な点、疑問があれば医師に相談するよう説明する |
| | 今回の予防接種説明 (2) | 今回の予防接種説明 (2) | 何のためのワクチンか理解させる 今回受けるワクチンについての説明を必ず行う |
| | 接種するワクチンの確認 (2) | 接種するワクチンの確認 (2) | 注射の種類、本数の確認 予防接種ワクチンの確認 |
| | 接種前の準備の確認 (1) | 接種前の準備の確認 (1) | 家庭での説明と同意が得られているかの確認 |
| | 待ち時間・空間の確保 (1) | 待ち時間・空間の確保 (1) | 診察「かぜ」の人とは別室でまてさせて、こどもがゆったりできる「道べる」(おもちゃあり)空間をつくっている |
| 接種時の子どもへのかかわり (18) | 予防接種中の役割を伝える (9) | 子どもの固定方法を説明する (5) | 乳幼児の場合は特に接種時の体の抑え方を指示 どのようにして、抱っこすればいいか しっかりと抱っこしてもらう |
| | | 子どもが安心できるようなかわり (2) | 子どもが安心するようそばにいてもらう 親に抱きしめられたり、手を握ってもらうことで安心して頑張れることを伝え、一緒に乗り越えてもらうようにしている |
| | | 安全に接種できるような説明 (2) | 安全に接種できるように協力してもらうことを説明する (2) |
| | 頑張った子どもへの働きかけを伝える (6) | 頑張った子どもへの声かけ (5) | 親からも子供を「がんばったね」などほめてもらうように声かけする (2) 嫌なことを成し遂げられた子どもへのねぎらいの言葉がけをするよう働きかける 頑張った子をいたわる声かけを依頼 子供をほめてあげる時に、親も一緒にほめてもらうように促す |
| | | 泣く子どもを叱る親へのかかわり (1) | 泣く子どもを叱る親が多いので、頑張っていることを伝えてもらえるように話すようにしている |
| 接種時の同席を促す (3) | 接種時の同席を促す (3) | 必ず家族は付き添って頂く (2) 一緒に来院した家族の前で接種が行われます | |
| 接種後のかかわり (13) | 接種後の注意事項を伝える (10) | 接種後の注意点 (3) | 接種後の注意事項を話す (2) 子どもの様態変化についての観察 |
| | | 接種後の入浴について (2) | ワクチンの種類別にパンフレット等を渡し、入浴のこと、熱が出る方もいること等説明 入浴は可能であるが強くこすらないように注意 |
| | | 接種後の過ごし方 (2) | 接種後の対応について説明する。できるだけ安静に、患部を清潔にする 実施後、再度、家での過ごし方 |
| | | 子どもの様子の観察を依頼 (2) | 接種後の子どもの様子観察など説明 (2) |
| | 副反応の説明 (1) | 副反応についてなどを説明することの方が多い | |
| 異常時の対処方法を伝える (3) | 異常時の対処方法を伝える (3) | 何か問題がある場合、必ず連絡するよう指導している 予防接種後の副作用が出たときの連絡を必ず話 接種後に部位の主張があった場合は写真などをとっておくようにはしておく | |
| 子どもへの教育方法の指導 (3) | 子どもへの説明の必要性を伝える (3) | 子どもへの説明の必要性を伝える (3) | ママ、パパ、一緒に来院する人が、注射をすることを伝えてほしいと話す。 協力が得られなかった児に対しては、来院する前に必要性を理解させてから来院するよう説明 「予防接種はしない」と子どもにウソをついて連れて来る保護者がいるので、子どもが納得しないような接種は危険だと説明 子どもの頑張りと一緒に家族も誉める (おさえ方が上手だったから...) きちんと家で子供に説明して連れて来てくれた家族には、お子様のがんばり、協力が得られたこと等伝えるようにしています 親と一緒に頑張ろうね、頑張ったねと伝える |
| きょうだいへの援助 (1) | きょうだいへの働きかけ (1) | きょうだいへの働きかけ (1) | 特に兄弟姉妹は同じように不安を持っていることもあるので、声かけは特によく、終了後、一緒に頑張ってくれたことをねぎらうようにしています |

表 3. 予防接種を受ける子どもと家族に対する看護職の思い

N=51 記述件数86

| カテゴリー | サブカテゴリー | コード | 記述内容 | |
|-----------------|-----------------------------|--|---|---------------------|
| 家族の多様性 (19) | 親が来所前に子どもに予防接種のことを話していない(7) | 親が子どもに注射を打つということを話していない方も多い | 親が子どもに注射を打つということを話していない方も多い | |
| | | こどもに接種することを言わないで来院する方が多い | こどもに接種することを言わないで来院する方が多い | |
| | | あまり多くはありませんが、小学生のお子様にご親御さんが予防接種を受けることを内緒で連れてくる方がいた | あまり多くはありませんが、小学生のお子様にご親御さんが予防接種を受けることを内緒で連れてくる方がいた | |
| | | 注射を受けることを言わないで、もしくは、くすりだけかかってごまかして来院してくるお母さんがいる | 注射を受けることを言わないで、もしくは、くすりだけかかってごまかして来院してくるお母さんがいる | |
| | | 親が子どもに予防接種を受けることを説明せずに来院された場合は、嫌がることが多い | 親が子どもに予防接種を受けることを説明せずに来院された場合は、嫌がることが多い | |
| | 事実を伝えていない(3) | 予防接種を受けることを兄に説明せず、来院し、兄がわからないまま接種させられている | 予防接種を受けることを兄に説明せず、来院し、兄がわからないまま接種させられている | |
| | | 子どもが予防接種と親から知られないで来院することが時折見受けられる | 子どもが予防接種と親から知られないで来院することが時折見受けられる | |
| | | 親によっては、子どもに「注射しない」「痛くない」とウソを伝えたりする | 親によっては、子どもに「注射しない」「痛くない」とウソを伝えたりする | |
| | 直前に伝える親がいる(3) | 現在でも「注射しない」と言っ来て来院してくる親子もいる | 現在でも「注射しない」と言っ来て来院してくる親子もいる | |
| | | よく接種前に「いたくない」と話すが親家族がいる | よく接種前に「いたくない」と話すが親家族がいる | |
| | | 注射の実施前に伝える親がいることが困ります | 注射の実施前に伝える親がいることが困ります | |
| 家族の多様性(6) | 親の認識不足の多さ(2) | 親の理解不足・認識不足が目立ってきている | 親の理解不足・認識不足が目立ってきている | |
| | さまざまな考えの親(2) | 予防接種に対しての認識が深い家族も多く、対応に追われています(定期接種も受けていない児も多い) | さまざまな考えの親がいるので、対応は臨機応変ですがやっていますが、難しいケースもある | |
| | 子どもに寄り添う気持ちがある(2) | 物を買ってあげるからと言い、泣いたりやがたりする買物も増える | 子どもに寄り添う気持ちが家庭によってさまざま | |
| | 父親の育児参加の増加 | 共働き家庭が増え、積極的に育児にお父さんのかかわりが増えているように感じます。両親で来院し、診療・接種時にお父さんが衣服の着脱などサポートします | 共働き家庭が増え、積極的に育児にお父さんのかかわりが増えているように感じます。両親で来院し、診療・接種時にお父さんが衣服の着脱などサポートします | |
| 親の準備性への思い (19) | 子どもに説明してきて欲しい(10) | きちんと説明した上で受けてほしい (2) | きちんと説明した上で受けてほしい (2) | |
| | | 子どもにも理解できるように説明や声かけをしてほしい | 子どもにも理解できるように説明や声かけをしてほしい | |
| | | 予防接種することが親が子どもに説明してから連れて来てほしい | 予防接種することが親が子どもに説明してから連れて来てほしい | |
| | | 予防接種について、親がきちんと子どもに説明してきてほしい | 予防接種について、親がきちんと子どもに説明してきてほしい | |
| | | これから予防接種を受けることを子どもに伝えてから来院してもらいたい。知らずに注射となると「だまされた感」や「くやしさ」の感情が子どもに出ている | これから予防接種を受けることを子どもに伝えてから来院してもらいたい。知らずに注射となると「だまされた感」や「くやしさ」の感情が子どもに出ている | |
| | | 子どもの理解できる言葉で話してきてほしいと親子との信頼の点からも良し | 子どもの理解できる言葉で話してきてほしいと親子との信頼の点からも良し | |
| | 親の準備性のよさ(3) | 追加説明の必要性がない(2) | いまま情報過多の時代なのか、事前に調べてきている人が多く、こちらが説明することも少なくなっています | 追加説明の必要性がない(2) |
| | | 親の対応が良い | 家族の方ですが、公共機関からの説明等が納得する方がほとんどなので接種時に新たに説明することはあまりありません | 親の対応が良い |
| | | 親の対応への思い(2) | よく、すんなりと接種をさせてくれる子供さんが多いように思います。親御さんの話が出来る | 親の対応への思い(2) |
| | | 予防接種の必要性を理解して欲しい(2) | 接種後15分ほど待っている間に、子どもが親に話しかけても親がスマホなどに目をつけているのを見ると、予防接種に来たときぐい何とかならないかと思う(説明しない)診療のみで受診されても、子どもが不安になり、大泣きするという状況になる | なぜ、予防接種を受けるのか、家族で理解 |
| | | 医師と一緒に子どもに説明してほしい | 親が必要を理解してくれればよい | 医師と一緒に子どもに説明してほしい |
| 親の気持ちへの思い(7) | 子どもを思う親の辛さ(4) | 子どもを思う親の辛さ(4) | 子どもを思う親の辛さ(4) | |
| | 親の予防接種への不安(3) | ワクチンの複雑さ | ワクチンの複雑さ | |
| | 親としての共感(1) | 私も子どもが小さい頃は、ワクチンに連れて行くだけで一苦労でした | 私も子どもが小さい頃は、ワクチンに連れて行くだけで一苦労でした | |
| かかわりの難しさ(5) | 親への教育の難しさ(2) | 親への教育の難しさ | 親への教育の難しさ | |
| | 親と子への援助の難しさ(3) | 援助方法の難しさ | 援助方法の難しさ | |
| | 信頼関係を大切に(5) | 親の方針に沿った看護をする | 親の方針に沿った看護をする | |
| 接種時のかかわりへの思い(6) | 事故防止に努める(4) | 誤接種を防ぐ(2) | 誤接種を防ぐ(2) | |
| | 同席をしよう | 同席をしよう | 同席をしよう | |
| | 前回の状況を考慮 | 前回の状況を考慮 | 前回の状況を考慮 | |
| | 予防接種教育の必要性(7) | 種類の複雑さ(2) | 種類の複雑さ(2) | |
| 親への良い方法の提案(8) | 付き添う保護者への要望(3) | 父親の参加が良い(2) | 父親の参加が良い(2) | |
| | 親による子どもの違い(2) | 説明があると不安が少ない | 説明があると不安が少ない | |
| | 接種施設を選択 | 安全な接種施設を選択 | 安全な接種施設を選択 | |
| 個別援助の必要性(6) | 援助者としての準備(2) | 対応するための知識の必要性 | 対応するための知識の必要性 | |
| | 親と子への援助の必要性(4) | 子どもの理解による参加度の違い | 子どもの理解による参加度の違い | |
| | 良い方法があればありがたい | 特にならぬ不安が強い子どもなど、気になるサインがある子には、個別で対応するが、全ての子には難しい。よい方法があればよかったです | 特にならぬ不安が強い子どもなど、気になるサインがある子には、個別で対応するが、全ての子には難しい。よい方法があればよかったです | |

「援助方法の難しさ」「人員不足」「時間的制約」といった<親と子への援助の難しさ>を感じ、【信頼関係を大切に】という「親の方針に従う」「関係性重視」といった<親との信頼関係>「優しい雰囲気づくり」「接種方法の工夫」といった<医療者側の技術・態度>を大切にしていた。

さらに、【接種時のかかわりへの思い】という「誤接種を防ぐ」「安全に行く」の<事故防止に努める>こと、<同席してもらう><前回の状況を考慮>をしていた。【予防接種教育の必要性】では、「種類の複雑さ」「接種予定の理解の必要性」「効率的なスケジュール」といった<予防接種スケジュール>や<予防接種教育の機会>を感じていた。【親への良い方法の提案】という<付き添う保護者への要望><親による子どもの違い><かかわりの工夫>をしつつも【個別的援助の必要性】という「対応するための知識の必要性」「接種できる環境調整」の<援助者としての準備>「初回接種時のかかわりの大切さ」「プレバレーションの大切さ痛感」「子どもと親へのかかわりの重要性」「良い方法があればやりたい」という<親と子への援助の必要性>を感じていた。

VI. 考察

予防接種を受ける子どもの家族への看護職のかかわりは、予防接種に焦点を当てた【接種前のかかわり】、接種時のかかわりである【接種時の子どもへのかかわりについて伝える】と【接種後のかかわり】があった。また、【親への精神的サポート】【親の頑張りを承認】といった親への精神的支援に関する内容と【次回以降の予防接種に関する指導】【子どもへの教育方法の指導】といった親への教育的支援があった。

1. 接種前・接種時・接種後のかかわり

【接種前のかかわり】【接種後のかかわり】の内容は、<子どもの体調の確認><今回の予防接種説明>や<接種後の注意事項を伝える><異常時の対処方法を伝える>といった安全な予防接種を実施する際に必要とされる援助である。安全を重視していることは家族に対する看護職の思いである【接種時のかかわりへの思い】である<事故防止に努める>があることからわかる。接種時のかかわりである【接種時の子どものかかわりについて伝える】は安全に子どもに予防接種を実施するための方法を説明しているとも推察できる。

また、接種時のかかわりである【接種時の子どものかかわりについて伝える】は、<予防接種中の役割を伝える><頑張った子どもへの働きかけを伝える>などである。処置等に親が同席する際には、親がどのようにその処置にかかわれば良いかを具体的に示すことが必要で

ある（岡崎，2010）。これは親が処置に同席した際に医療者への気兼ねなどから遠慮して子どもにかかわれないことから重要である。

2. 親への精神的支援

【親への精神的サポート】には<不安や疑問への援助><親への共感を示す>などがある。親の不安となる原因には「ワクチンの複雑さ」「予防接種への不安」といった【親の気持ちを思う】という家族に対する看護職の思いがあると推察できる。予防接種に対する親の不安として、任意の予防接種はどれを受けたらよいのか、同時接種は大丈夫なのか、副反応はどのようなことがあるのかなどがある（室矢ら，2014）ことから、親への精神的支援の必要性がわかる。

親への精神的支援として、<子どもと一緒に親を誉める>といった【親の頑張りを承認】があった。これは、家族に対する看護職の思いである<親としての共感の気持ち>を示す【医療者としての思い】や【信頼関係を大切に】があり、看護職自身の親としての経験から親への共感をしていることや親との関係性を重視し信頼関係を大切にしている様子が推察される。これは子どもの健康管理を担う親との関係を重視しているともいえる。また親の頑張りを承認し自己肯定感を高めることによって、次回の予防接種時の協力を促し、子どもの予防接種に関連した健康管理を継続していかれるような援助である。

3. 親への教育的支援

【次回以降の予防接種に関する指導】には<ワクチンのスケジュール管理>という個別の接種スケジュール作成や公費接種をふまえた計画などがあった。予防接種は平成25年の予防接種法改正によるHib、肺炎球菌ワクチンの定期接種化やロタウィルスなどの接種可能な予防接種が増えたことに加えて、同時接種の推奨など大きく変化している（厚生労働省，2015）。このように複雑化した予防接種のスケジュールに関する指導が必要であることがわかる。また、家族に対する看護職の思いとして【親の気持ちを思う】や【予防接種教育の必要性】といった予防接種の種類の複雑化に対する内容があったことから、予防接種の種類や回数、同時接種など予防接種に関する選択肢が増えたことや副反応の可能性などによる影響として親への教育的支援が必要であると看護職が考えていたと推察できる。

看護職は【子どもへの教育方法の指導】として子どもへの説明の必要性を伝えていた。また看護職の思いとして【家族の多様性】という<親が来所前に子どもに予防接種のことを話していない>ことから<親への要望>として「子どもに説明してきて欲しい」など【親の準

備性の思い】があった。このことは、看護職は親から子どもへの説明がされ、子どもが納得した状態で予防接種を受けに来てほしいと考えていると推察できる。しかし親は子どもに予防接種を受けさせたいという思いが強く、子どもの理解力や子どもの不安など情緒的なゆれへの懸念があるため説明できないとされている（藤沼ら、2015）。また親は自分よりも医師から説明する方が子どもが納得しやすいなどの理由から説明をしない場合もある（藤沼ら、2014b）。親の子どもへの説明の状況を看護職は把握しているということになるが、看護職の期待と親の心理には子どもへの説明に関するずれが生じている。

4. 家族への教育的支援への課題

【子どもへの教育方法の指導】の記述件数は3件と少なかった。これは親への教育の必要性を感じつつも実際に行うことの難しさがあることや人員不足等の理由により【かかわりの難しさ】を感じていたと推察できる。また、【個別的援助の必要性】にあるようにプレパレーションの大切さを理解しているものの、知識や方法、環境調整についての課題があると感じているのである。プレパレーションを活用するにあたり必要になるのは、時間、知識、場所、道具、専門スタッフ等である（大森ら、2010）とあるように、多忙な外来看護においても子どもが主体的に予防接種を受けられるようなケアガイドラインの開発と看護職の支援が望まれる。

また、【きょうだいへの援助】は少数ではあったが、検査や処置と異なり、予防接種の場合にはきょうだい共に予防接種を受けることやきょうだいは接種しないものの接種時に同席していることもあるであろう。ケアガイドラインの開発の際には、きょうだいへの援助も含めた内容であることが望ましいといえる。

VII. 本研究の限界と課題

本研究は回収率が低く、診療所および保健センターの現状を網羅したものとは言い難い。回収率の低さは、小児科を標榜する診療所および保健センターの看護職を対象としたため、幼児を対象とした予防接種を実施していない施設や看護職の不在など回答の条件に合わなかったことが考えられる。また、質問紙調査という断続的調査であり、自由記述部分を対象としているため実態を知るには限界があるといえる。今後、実態を明らかにするために面接調査等も含めた追加調査をしていく必要がある。

VIII. 結論

1. 予防接種を受ける子どもの家族への看護職のかかわりは、【接種前のかかわり】【接種時の子どもへのかかわりについて伝える】【接種後のかかわり】があり、【親への精神的サポート】【親の頑張りを承認】といった親への精神的支援と【次回以降の予防接種に関する指導】【子どもへの教育方法の指導】の親への教育的支援があった。
2. 接種前・接種時・接種後のかかわりは、安全に子どもに予防接種を実施するためのかかわりであり、【接種時の子どものかかわりについて伝える】ことは、処置に同席した際に親が医療者への気兼ねなどから遠慮して子どもにかかわれないことから重要である。
3. 親への精神的支援として親の不安となる原因にはワケチンの複雑さなどの思いがあり、【親の頑張りを承認】することは親との関係性を重視し信頼関係を大切にしていた。
4. 複雑化した予防接種のスケジュールに関する指導が必要であり、家族に対する看護職の思いとして予防接種の種類や回数、同時接種など予防接種に関する選択肢が増えたことや副反応の可能性などによる影響について親への教育的支援が必要である。
5. 親の子どもへの説明の状況を看護職は把握していたが、看護職の期待と親の心理には子どもへの説明に関するずれが生じていた。
6. 看護職は親への教育の必要性やプレパレーションの大切さを理解しているものの、実際に行うことの難しさや人員不足、プレパレーションの知識や方法、環境調整についての課題があると感じていた。
7. 多忙な外来看護においても子どもが主体的に予防接種受けられるようきょうだいへの援助も含めたケアガイドラインの開発と看護職の支援が望まれる。

謝 辞

本研究の趣旨をご理解頂き、ご協力くださいました看護職の皆様、診療所および保健センターの施設長様に心より感謝いたします。

なお、本研究は埼玉医科大学保健医療学部グラント13-006の一部であり、第62回日本小児保健学会学術集会にて一部発表した。

文 献

- 蝦名美智子(2005): 子どもから信頼される医療とプレパレーション, 小児保健研究, **64** (2), 238-243.
- 本間昭子, 加藤正子, 大久保明子他2名(2009): A県内の

小児看護実践状況に関する調査（その2），日本看護学会
小児看護，**39**，74-76.

堀妙子，関恭子，奈良間美保（2002）：医療的処置を行っ
ている小児が通院している外来看護の実態と看護師の意識
に関する調査，日本小児看護学会誌，**11**（2），28-33.

厚生労働省（2015）：予防接種情報，平成27年11月17日
アクセス，<http://www.mhlw.go.jp/>

室矢智美，新垣純子，森田多恵子他5名（2014）：個別に作
成した予防接種スケジュールはきちんと実施されたか，外
来小児科，**17**（2），210-213.

岡崎裕子，榎木野裕美（2010）：検査・処置を受ける幼児の
親と医療者との協働に関する国内の文献検討，日本小児看
護学会誌，**19**（1），92-102.

岡崎裕子，榎木野裕美，高橋清子他1名（2011）：採血・点
滴を受ける幼児のプレパレーションにおける親の参画に関
する親の認識，日本小児看護学会誌，**20**（2），33-40.

大森裕子，友田尋子，石川福江他2名（2010）：小児科外来
におけるプレパレーションの現状，甲南女子大学研究紀要
看護学・リハビリテーション学編，**4**，153-164.

流郷千幸，宮内環（2003）：幼児の処置場面における保護
者のかかわり，滋賀医科大学看護学ジャーナル，**1**（1），
46-55.

田中恭子（2008）：プレパレーションの5段階について，小
児看護，**31**（5），542-547.

藤沼小智子，佐鹿孝子，杉山智江他2名（2013）：幼児が予
防接種を受ける際の親の説明，小児保健研究，**72**，145.

藤沼小智子，佐鹿孝子，坂口由起子他2名（2014a）：予防接
種を受ける子どもと家族への看護職のかかわり～A県西
部地方の診療所・保健センターでの実態～，小児保健研究，
73，180.

藤沼小智子，佐鹿孝子，杉山智江他2名（2014b）：予防接種
を受ける幼児に親が行う説明の実態～A市内保育園での調
査を通して～，埼玉医科大学看護学科紀要，**7**（1），9-17.

藤沼小智子，佐鹿孝子（2015）：予防接種を受ける幼児へ
の親のかかわり～自由記述の分析を通して～，小児保健研
究，**74**（3），385-392.